



## 地域の環境や素材(竹)を生かした活動(5歳児の姿を中心に抜粋)

### 春をみつけよう

#### もりもりランドに行って春をみつけよう(行き来する途中に竹藪がある)

- ・ 田んぼに水が入ってる ・ おたまじゃくしがいるかな
- ・ 風が気持ちいいよ ・ 坂を転がると気持ちいいよ

#### 春を味わおう

- ・ 食べられる植物・体によい植物さがし→これは食べられるかなー 地域の方に聞いてみよう
- よもぎ、雪の下、タケノコ、かたらの葉→よもぎ団子・天ぷら・**タケノコの煮しめ**
- ・ **ちまき(笹団子)を作って食べよう**→かたらの葉を採ってきて団子を作ろう

#### 竹藪で楽しもう(タケノコが50cm~1m50cmに伸びている)

<タケノコをとる>「わー長ーい」「どうしたらいいかな?」「押してみーかー。手伝ってー」「いいよ」「うーっん」「もっと力入れて!」(**力の量に気づく**)

<皮をむく>「毛みたいなものがついてる」「外側についてる」「中は線がある」「ぶちぶちもある」「お母さんは、竹になってる」「タケノコ、また、生えるかなー」「竹の子どもだから、タケノコだ」(**いろいろな感触に気づく**)

<タケノコを測る>タケノコの高さの印を手につける。幼稚園に帰って、手に印があることの意味を3~4歳児に教える。

「手が届かなくなったらどうして計る?」「何かこんな物に(脚立)乗って測る?」「長い(スケールの動作をする)ので測る?」「抱いてもらって測る?」「肩車がいいわ」「小学校の先生に聞いてみる?」(**考える**)

<小竹(コジク)を見つけ、遊ぶ>箒にしたり魔法使いの杖にしたりして遊ぶ。

<タケノコの歌ができる>知っている歌の替え歌やオリジナルの歌ができ、歌を楽しむ。



### 笹や竹を使ってあそぼう

#### 作って遊ぼう

<笹舟>水に浮かべて遊ぶ活動=「大きな舟・長い舟・強い舟を作りたい」

○側溝で試してみよう→「速く流れるよ、ゆっくり流れるよ」

側溝の水量→「水が少ないと舟が流れないよ」

○他の材料(かたらの葉やタケノコの皮等)

・ 現地に舟作りの道具を持って行って作る→「へび舟だー」

・ 安定して流れていることを感じると→「二槽舟だー」「簡単だわー!私も作るわ!」「ゆっくり流れーわー」「よー流れーわー」

○笹舟が枯れていくのを見て「へろへろになった」「笹は暑くなったら枯れるんだよ」水の中に浸かっている笹を見て「水につけたら、枯れないんだ」・・(**水中と空気中の違いを知る**)

<竹で作ろう>大きな舟が作れるよ→「竹は浮く?沈む?」

↓

○側溝に行き、個々に試す(いろいろな種類・長さの竹を用意)

縦半分にした竹は沈む。丸太の節が1つある竹は沈む。丸太の節が2つある竹は浮く。長いのは浮く。→「不思議!」「どうして?」

○祖父母と一緒に作る→そうめん流しの樋、水鉄砲、竹ぼっくり、いかだ

○自分で舟を作る→考えて作る。プールで試す・遊ぶ。



## 考察

匂い、手触り、成長の大きさ、色の変化、葉っぱの裏と表の違いなど、さまざまなことを感じとった。それらの気付きを基に、竹を中心にしながら活動を展開したことで、自分の思いを存分に表し、不思議さに気付き、分かり、その過程において心がときめくを感じながら意欲的に取り組み、発見や理解をすることに自信につながった。また、何回も繰り返し取り組んだり、継続して観察することができたことで、笹舟作りのように、課題意識をしっかりともち、考え、工夫する取り組みになった。

## ポイント

子どもにとって身近な環境や素材が、どのように価値のあるものなのかを見直すことで、保育者が保育の構想を具体的にもつことができ、「科学する心」が育まれていく変容を捉えることにつながっています。この事例では、地域環境や幼児の生活にとって身近な「竹」という素材により、子どもたちの豊かな遊びの展開を期待できる構想図が示されています。そして、まさに子どもたちは、竹を遊びや生活に取り入れて、様々な感動体験、疑問や不思議、発見など楽しみながら、考えたり表現したりして、「科学する心」が育まれる意欲的な取り組みをしています。